

1 教科について

国語

昨年度の課題

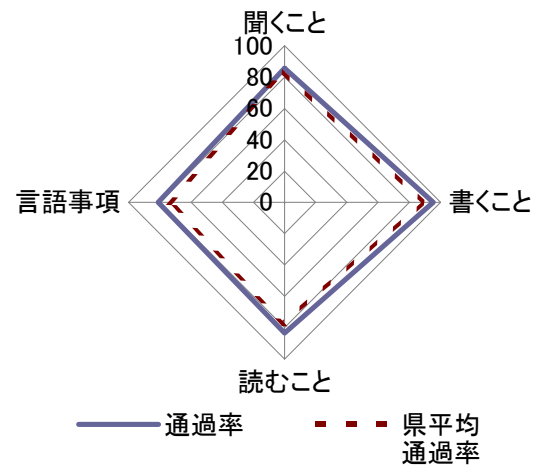
- ①「読むこと」領域で、文と文の意味のつながりや段落相互の関係を考えながら、文章を正しく読むこと。
- ②「聞くこと」領域で、話の前後で抜け落ちている内容を聞き取ること。
- ③「読むこと」領域の活用力を問う問題で、登場人物の行動や場面の移り変わりに注意しながらあらすじを書くこと。

昨年度の課題を受けて
具体的に取組んだ事項

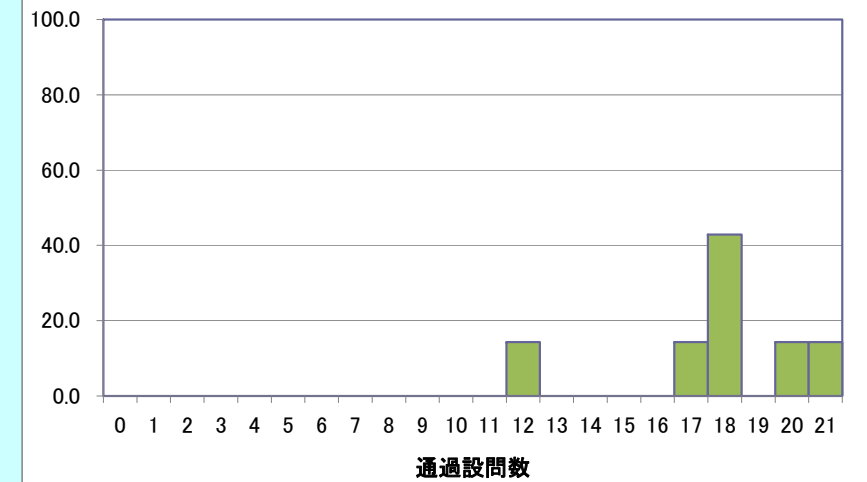
- ①一人学びの改善と充実
授業の中に自力解決の時間をとり、叙述の中からキーワードを見つけてサイドラインを引いたり自分の考えをまとめたりさせ、練りあいの場面では、叙述に基づいた話し合いをさせる。
- ②「つかおう8つの言葉」の活用
本校独自の話型モデルを各学年に掲示し、意図的に使わせることで、友だちの考えの意図を考えて聞いたり、自分の考えを端的にわかりやすく説明したりする力を付けた。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 **84.4%** 県平均 **78.5%**

領域別平均通過率(国語)



通過設問数ごとの児童割合(国語)



重点課題 ◎:「基礎・基本」定着状況調査
◇:全国学力・学習状況調査

- ◎言語事項が重点課題である。特に、「第3学年の漢字の書き」「ローマ字の読み」が正しく書けていない。ローマ字では「d, g」など50音以外の表記に苦手意識がある。
- ◎「読むこと」の領域で、段落相互の関係を問う問題に誤答が多かった。問いに対する答となる文章を、文章全体の中の「はじめ」となる箇所挿入している。「文章構成を押さえながら読み、段落相互の関係や役割をつかむ。」ということが、できていない。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ① 漢字や言葉など「言語事項」に関わる学習プリントを作製し、その定着に向けて、検定テストを年間2回実施する。また、そのテストに向けて学力の補充(「かざみね」タイム)や、テスト実施後のフォローアップの学習に取り組む。
3・4年を通して、ローマ字の「読み」や「書き」についての定着を図る。
- ② 「読むこと」の領域に関わる単元学習の授業の改善を図る。中心となる語や文、指示語や接続語、文末表現に注意して読むなど、読み方を再度しっかり指導する。文章構成に着目させていく場面では、ばらばらにした段落を再構成し、理由を交流しあうなど学習の進め方の工夫を図る。

来年度の目標値

- 23年度の「言語事項」領域における学校平均通過率81.0%を、2ポイント以上上回る。
- 23年度の国語科学校平均通過率84.4%を、2ポイント以上上回る。

指導方法等の改善計画について

算 数

昨年度の課題

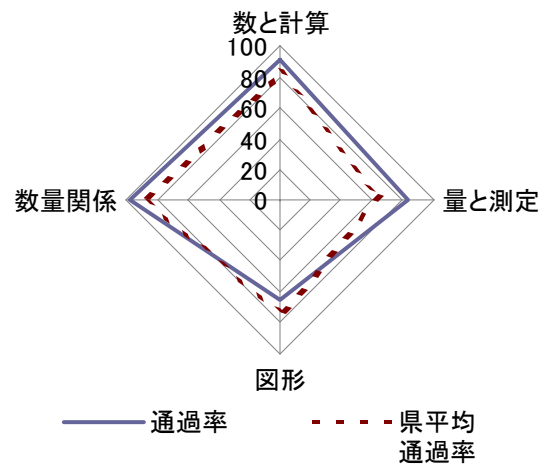
- ①図形領域の設問で、直角三角形を作図することやひし方の定義をもとに正しい図形を選択すること。
- ②量と測定領域の設問で、面積の単位であることを読み取り適切な記号を書くこと。
- ③図形領域の活用力を問う設問で、判断理由を数学的に表現すること。

昨年度の課題を受けて 具体的に取り組んだ事項

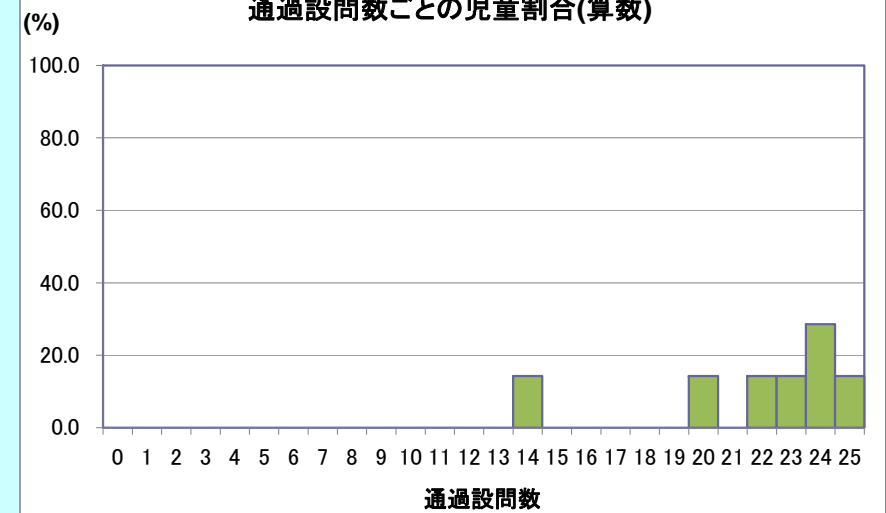
- ① 図形の定義を多面的に理解させる指導
様々な図形の中から、定義に基づいて指定された図形を選択する問題等、フォローアッププリントの実施。
- ② 量感を育てる指導
全学年において具体物の大きさや広さを調べたり確かめたりする等の体験活動の充実を図った。
- ③ 「つかおう 8つの言葉」の掲示
本校独自の話型モデルを各教室に掲示し、毎時間言語目標を掲げて意図的に使わせたり、自分の考えを明確に書くノートづくりをさせたりして、思考力・表現力を高めた。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 **86.9%** 県平均 **77.8%**

領域別平均通過率(算数)



通過設問数ごとの児童割合(算数)



重点課題

◎ : 「基礎・基本」定着状況調査
◇ : 全国学力・学習状況調査

- ◎ 「図形」領域の長方形の性質、直角三角形の作図に課題がある。特に、「長方形の判断」の設問において、対角線の理解が不十分なために多くの児童が誤答となっていた。
- ◎ 「量と測定」の領域の設問で、「およその重さ」を問う問題の通過率が低かった (57.1%)。1 kg に相当する重さを、「非常に重い」と感じている児童が多い。重さについての十分な量感が身に付いているとは言えない。
- ◇

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

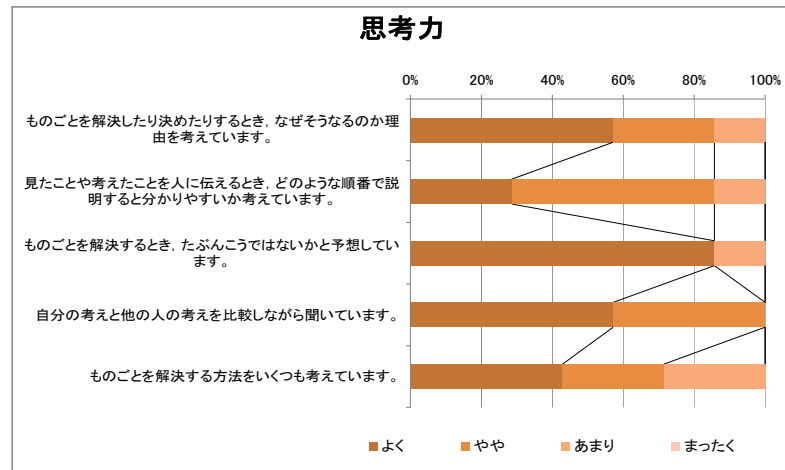
- ① 三角形や四角形などの基本図形について、その定義や性質について理解させるだけでなく、それらを発見したり活用したりする活動の充実を図る。その際には、図形に関する算数的用語をキーワードとして説明し合ったりまとめたりして、十分に定義や性質を活用できるよう指導する。
- ② 「長さ・広さ・重さ・かさ」など多様なものの量感について、体験を伴った学習の重点化を図る。各学年での「量と測定」領域に関する単元の学習において、測定などの活動を一人一人に体験させ、学習後には話し合ったりノートにまとめたりして、ふり返り活動を設ける。

来年度の目標値

- 23年度の「図形」領域における学校平均通過率64.3%を、10ポイント以上上回る。
- 23年度の算数科学校平均通過率86.9%を、2ポイント以上上回る。

2 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：学校質問紙調査，児童質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：学校質問紙，児童質問紙）

(1) 生活・学習

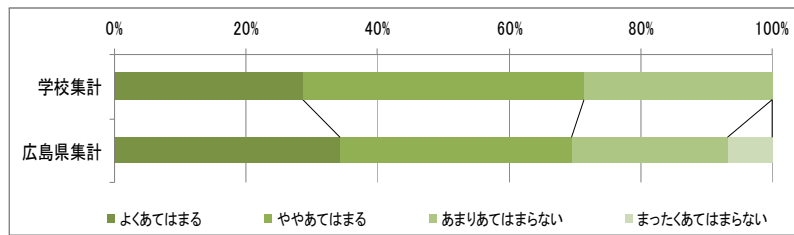


改善したい点 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	今後の具体的な取組の内容
◎思考を深める算数科の授業を行なう。 「ものごとを解決する方法をいくつも考えています。」の質問に対する肯定的評価が71.4%にとどまっている。課題解決において複数の解決方法を考えさせたり教師側から多様な解決方法を提示したりしながら学習を進めていく。 ◇	○集団解決の場において、多様な考え方や方法について話し合せて、多様な考え方のよさやおもしろさに気付かせると共に、自力解決の場面で、各自に複数の解決方法について考えさせるようにする。

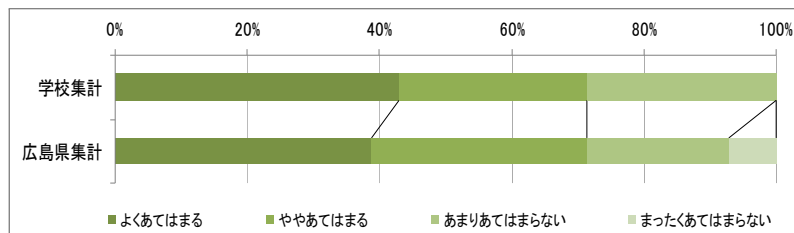
来年度の目標値	・「思考力」の全質問項目について、児童の肯定的回答80%以上。
---------	---------------------------------

(2) 教科

国語の授業では、「しかし」「また」「つまり」などのつなぎ言葉や「これ」「それ」「あれ」などの言葉に気をつけながら、文章を読んでいます。



算数の授業では、自分の力に合った内容や方法、学習の進みぐあいなどを選んで学習する方がよく分かります。



	児童の回答と学校の指導についての課題 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	授業改善の方向性や具体的な取組
国語	◎算数に比べ、国語が「好きです。」と回答した児童の割合が低い。また、文章中のことばに気をつけながら文章を読んでいるという質問に肯定的に回答した児童は71.4%で、他の調査項目の中では肯定的評価が低い。 ◇	○読み取ったことを授業に生かしながら活動させる ・読み取りの学習において、接続語や指示語に着眼させて文章構成を読み取っていく。さらに、そのことを生かす話し合いを設定し、その中で表現したりまとめたりしていく活動に重点をおく。
算数	◎自分の力に合った内容や方法、学習進度を選んで学習する方がよく分かったと肯定的に回答した児童が71.4%で、他の項目よりも比較的良かった。学校としても、日常的には一斉指導が主で、個に応じた指導の有用性を感じ取らせるような指導方の充実がなされていない。 ◇	○児童の自主性を生かす指導法の改善を図る。 ・学習課題や学習方法の選択を児童自らが行なえる授業づくりを実施するとともに、家庭学習においては、学習の分量や時間などを児童自身が計画立案できるよう助言・指導し、目標達成できるようサポートする。

来年度の目標値	・「国語の授業で、接続語や指示語に気をつけながら、文章を読む」の質問項目において、児童の肯定的回答を80%以上にする。 ・個に応じた指導法について、その有用性を感じる児童の割合を80%以上にする。
---------	---

